



新尾道市史広報*創刊準備号

View of The Onomichi Station

尾道駅停車場

「新尾道市史」編さん始動

尾道市では、市制施行 120 周年にあたる平成 30 年度を振り出しに、40 年度までの 11 年間計画で、新市域での市史「新尾道市史」を編さんします。新市史編さんの概要及び刊行計画は次の通りです。

基本方針

時代の進展等に伴い、郷土のかけがえのない貴重な資料が急速に失われつつあることから、市史編さん作業に着手する。編さん作業にあたっては、尾道市における歴史・文化等に関する資料収集・整理・保管を綿密に行うとともに、これらを系統づけてその発展過程を明らかにし、市民の財産として郷土への理解や郷土愛の高揚を図り、市政ならびに市民生活の指針とする。

本の体裁（予定）

通史編、資料編…A 5 判 縦 通史編は 1 段組、資料編は 2 段組

地理編…A 4 判 横 ソフトカバー

民俗編、文化遺産編…A 4 判 縦 ソフトカバー

全体頁数は 1 巻あたり 700～800 頁。地理編のみ 500 頁程度の予定。

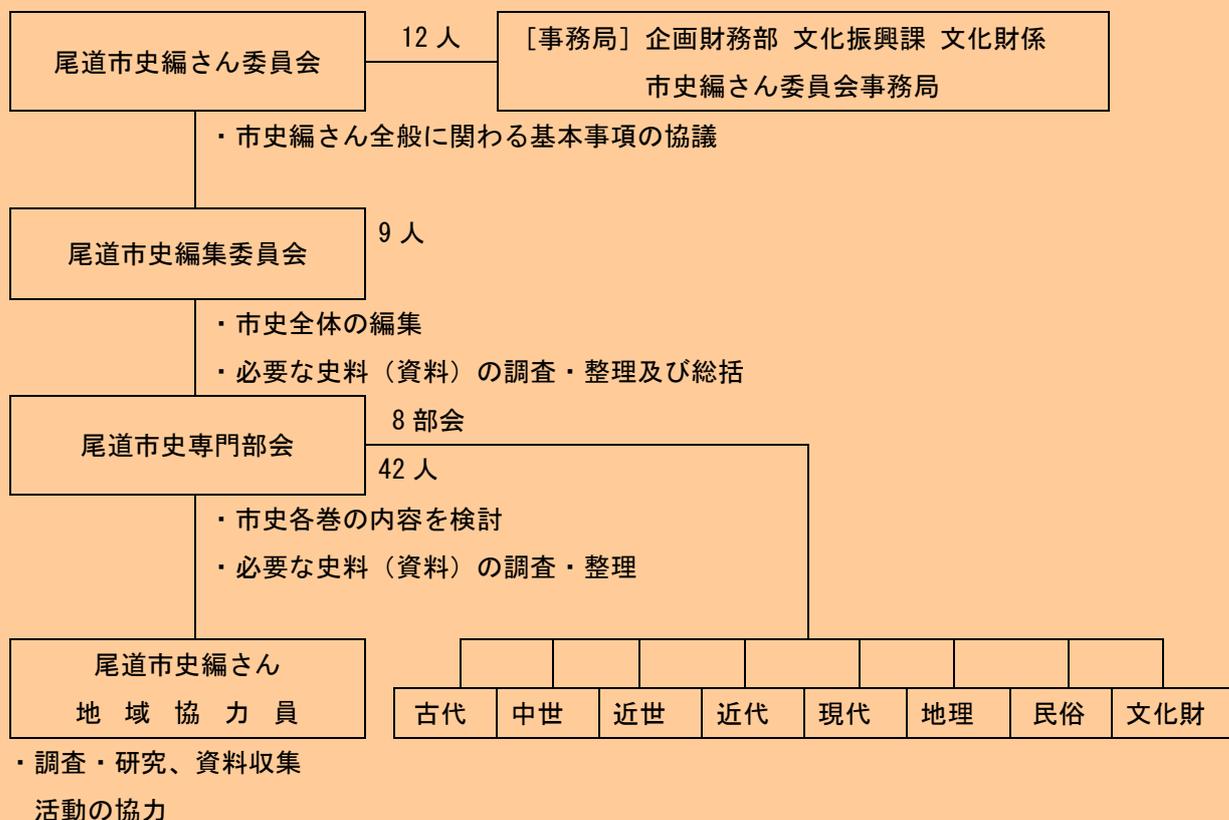
全 10 巻の構成

- 通史編…原始・古代・中世、近世、近代、現代の全 4 巻
- 資料編…古代・中世、近世、近代・現代の全 3 巻
- 個別分野…地理編、民俗編、文化財・歴史文化資源編全 3 巻

刊行スケジュール（予定）

平成 30（2018）年度	文化財・歴史文化資源編
平成 32（2020）年度	史料編 近世
平成 33（2021）年度	史料編 近代・現代
平成 34（2022）年度	史料編 古代・中世
平成 35（2023）年度	民俗編
平成 36（2024）年度	地理編
平成 37（2025）年度	通史編 原始・古代・中世
平成 38（2026）年度	通史編 近世
平成 39（2027）年度	通史編 近代
平成 40（2028）年度	通史編 現代

新尾道市史編さん組織体制

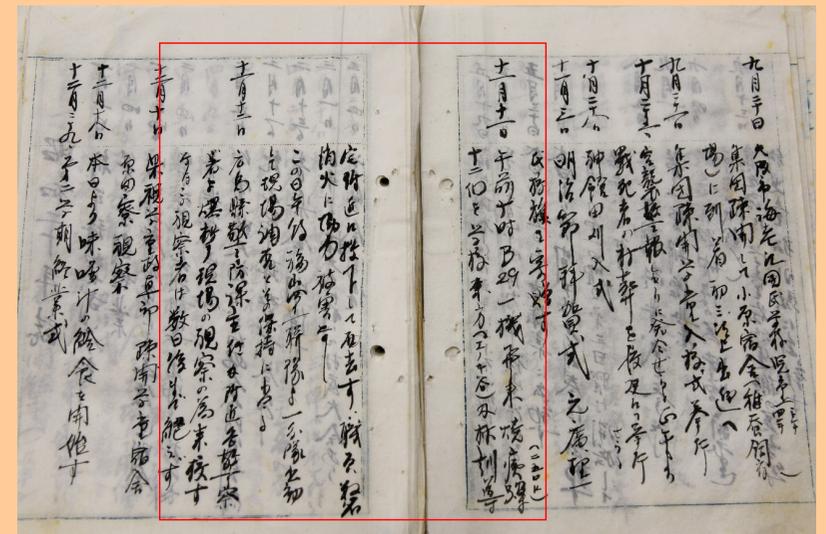


学校沿革誌から甦る原田空襲の記憶

市史編さん事務局では、新市史編さんの基礎的資料となるものの確認・調査及び収集に努めていますが、この内の市内学校の資料調査において、市立原田小学校（高橋智子校長）の学校沿革誌（創立から現在に至るまで年度毎に綴られる各校保管の記録文書）から、歴史の中に埋もれた「原田空襲」の記録が再確認される事になりました。

調査記録 【調査日時：2016年8月9日午後】

原田小の沿革誌を年度毎に確認・記録撮影する中で、戦時下となる昭和19年11月11日の記述において、米軍のB-29が飛来し、焼夷弾12個を学校東方へ投下したとの記録が確認された。原田への爆弾投下の逸話についてはこれまでも口頭によって語り伝えられ、また、一部の文献（戦災史等）においてその旨の記述があるが、当事者によってその当時に記録された文書（生の資料）の確認は今回が初めての事になる。



昭和19年度の11月11日に綴られた爆弾投下の詳細。翌日も余波続く。

十一月十一日

午前十時B29一機飛来焼夷弾（二五〇k）十二個を学校東方（エノキ谷）及林訓導宅附近江投下して西去す 職員数名消火に協力被害なし

この日午後福山四十一聯隊と一分隊出動して現場調査と其保持に当る

十一月十二日

広島県警防課主任及附近各警察署が爆撃現場の視察の為来校す

なほこの視察者は数日後まで絶えず

読み下し文：半田堅二（尾道学研究会古文書担当）

関連資料 ※各書に記載されるまま引用しており（原文）、言語表現も当時のものです。

【新編広島県警察史】 昭和29年4月28日、広島県警察連絡協議会発行

○ 第三章・戦時下の警察活動一般（401p）

昭和十九年十一月十一日敵機は遂に広島県を襲った。即ち広島県上空に侵入した敵B-29一機は、御調郡原田村山林中に焼夷弾を投下して脱却したが、幸い被害は僅かであった。これが県下における初の敵機空爆である。原田村の空襲以来、敵機の広島県に対する来襲は殆ど連日の如く続いた。以来防空警報発令のない日は稀で、警察は全機能を挙げて警防警察に集中し、連日連夜全く文字通り不眠不休の活動であった。

【広島県戦災史】 昭和63年3月25日、広島県発行

○ II 広島県の戦災 一 県内の空襲と戦災（279p）

広島県内の空襲は、県警察部の調査（昭和21年11月）によると、十九年十一月十一日から二十年八月十四日までの間に四六回おこなわれている。県内の最初の空襲は、目的ははっきりしないが、B29一機が飛来して御調郡原田村（現尾道市）の山間に焼夷弾を投下し、建物の一部を焼失する被害をだした。

【広島県史 近代2】

○ VII 原爆と敗戦 一 空襲下の広島県 3 空襲下の生活（1025p）

広島にB29がはじめて姿をあらわしたのは、昭和十九年（一九四四）十一月六日のことである。九州地域を攻撃していたB29部隊の一機が、呉地域の偵察飛行を行ったものである。当日、呉鎮守府外防空指導部長は、「偵察に来たら空襲は必ずある」と語り、市民の防空に対する注意を喚起した。これ以後十九年中に、三回（十一月十一日、十二日、十二月八日）来襲し、十一月十一日には、御調郡原田村（現尾道市原田町）山中に、焼夷弾十一個を投下した。昭和二十年三月からは、B29の来襲は日を追うごとに回数を増した。

市史とは？ ～自治体がまとめた地域の歴史書～

地方自治体によってその地域の歴史・民俗を総合的にまとめた歴史書が、市町村では市史・町史・村史、郡では郡史、県では県史と呼ばれるものです。自治体組織の内に設置された編さん室によって編さん事業の事務的作業及び、史資料の収集・調査・整理が行われます。

実際の執筆にはそれぞれの分野を専門とする研究者（主として大学教員）が項目・内容毎に分担して当たる例が一般的ですが、古い時代にあってはこれによらない場合もあります。分野は刊行される内容によって異なりますが、歴史学にとどまらず、民俗学、考古学、文化財学、地理学と広範囲にまたがる場合が大半です。

自治体史の編さん作業は戦後になってまた盛り上がりを見せ、明治 100 年という節目となった 1968（昭和 43）年を一つの契機として、70 年代にピークを迎えます。

尾道市でも、既刊の市史・町史が一通り存在しており、旧尾道では戦前に発刊された『尾道市史』上中下巻、戦後（70 年代）の『新修尾道市史』全 6 巻、旧御調町で『御調町史』（通史編 1 巻のみ）、旧向島町で『向島町史』（通史編 1 巻のみ）、旧因島市で『因島市史』（通史編 1 巻のみ）、旧瀬戸田町で『瀬戸田町史』全 5 巻（通史・民俗・地理・耕三寺・資料編）となります。この内、尾道・因島の市史については、尾道短大教授も務めた青木茂氏（故人）が一人でまとめ上げたものになり、このスタイルは亀山士綱の時代の地誌編さんに近いものがあります。



参考資料…「自治体史編纂の現状と将来」→『芸備地方史研究』第 199 号所収

◆ 市史の元祖となる江戸時代の「地誌」

江戸時代にも「地誌」と括られる地域の歴史書をまとめる営みが見られました。

尾道にあつては、文化人でもあつた豪商・亀山士綱（しこう、通称・元助、屋号は油屋）が『尾道志稿』（おのみちしこう・文政 8 年 1825 刊）という地誌を編さん執筆しており、これなどは尾道市史の元祖的なものと位置付けられます。広島藩では頼山陽の叔父・頼杏坪（きょうへい）らによって編さんされた藩内地誌の『芸藩通志』（文政 8 年 1825）、福山藩側の同様なものでは『福山志料』（福山藩儒として菅茶山が編さん、文化 5 年 1809）があり、『尾道志稿』は『芸藩通志』への尾道提供資料として編まれたものではないかと見られています。



表紙写真解説

初代尾道駅舎の姿

先ごろ建替えが発表された尾道駅舎ですが、こちらの写真（絵葉書）は、開業当初（明後期）の初代駅舎を写した一枚です。二代目となる洋風建築とは異なり切妻造りの和風建築であるのが特徴です。駅前に停車する人力車などが時代を感じさせます。因みにリニューアルする新駅舎は、こちらの初代駅舎をモチーフにしたデザインとなります。

写真提供：尾道学研究会

尾道に関する資料はありませんか？

次に該当する資料をお持ちの方、所在をご存じの方からの情報を随時募っております。項目上に無いものやよく分からない歴史資料についてはお気軽にお問い合わせください。

- 古文書（行政・学校等の公的文書、商家や庄屋等の民間文書）※日誌類も含む
- その他の紙もの（引き札・広告ビラ、ポスター、パンフレット、広報回覧資料等）
- 図書刊行物（郷土資料となる図書類、地元発の記念誌）※広島県の括りも対象内
- 古新聞（尾道市域の記事が掲載されるもので主として戦前の紙面）
- 古写真・写真絵葉書（古写真は尾道市域で撮られたもので当時の様子が分かるもの、時代は昭和時代迄含める、絵葉書は尾道市域及び広島県内も含めて網羅する）
- 古地図・絵図（戦後も含めた尾道市域を記録する地図・絵図類）
- 映像・音声資料（昔の尾道風景を記録する映像、語り部の音声記録等）
- 民俗資料（農具・漁具など生産用具、民具、郷土玩具、祭礼で用いる道具類等）
- 考古資料（尾道市域から出土した資料である事がはっきりしているものに限定）
- その他、資料として有効・有益となると判断されるもの（事務局側で判断）

※ 以上の有形資料の他にも、証言（昔話・戦争体験等）が出来る伝承者の存在にも目を向けます。

事務局だより*2016.12.1

初めまして！市史編さん事務局です。

平成28年5月1日、尾道市役所企画財務部文化振興課内に『市史編さん事務局』が発足しました。市が市史編さん事業に着手するのは、「新修尾道市史」が刊行されてから39年振りの事です。市史編さん事業の発足にあたり、皆様に市史についての理解を深めて頂くとともに、市史編さん事業の経過や情報をお知らせするため、「たより」を発行する事となりました。

市史に興味があつて本誌を手にとられた方も、市史って？と思って手にとられた方にも、わかりやすい『たより』を目指して参ります。ご愛読頂けると幸いです。（S.S記）

お問い合わせ先…尾道市市史編さん委員会事務局（企画財務部文化振興課文化財係内）

〒722-8501 尾道市久保1丁目15-1 尾道市市民会館（旧公会堂別館）3階32号室

tel 0848-38-9359 / fax 37-2740 / e-mail: bunkazai@city.onomichi.hiroshima.jp